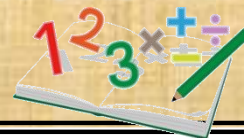




算数・数学部報



深い学びを目指して

岡崎市現職研修委員会算数・数学部
部長 塚谷 保



リターンライダーとなって5年半。走行距離20,447kmの中古で買ったバイクでほぼ週末ごとにツーリングに出かけ、先週59,500kmを超えた。運転するのが目的だが、目指す「目的地」が必要である。最近はスイーツ店の紹介記事を見つけるたびに、携帯の地図アプリに入力している。燃費が悪く、14km/Lから18km/Lぐらいであるので、いつも運転しながら走行距離を確かめ、あとどのくらい走ることができるか計算している。走行距離÷およその燃費、4年生の概算の授業を思い出す場面である。

次期学習指導要領について、内外教育や教育新聞など、さまざまなメディアで情報を目にしている。「内外教育2/20」号では文科省の各教科WGでの議論の中で、算数数学科の「見方・考え方」について、「事象や言説を数理の視点から捉え、論理的、統合的・発展的、批判的に考察すること」としてあった。算数数学科の「見方・考え方」の大きな捉えのひとつである。今年度の岡崎市現職研修委員会算数・数学部の研究主題は「数学的な見方・考え方を働かせながら、主体的・対話的で深い学びを実現する授業の創造」である。数学的な見方・考え方をさらに具体的に捉え、その单元、その授業で、どのような数学的な見方・考え方を引き出し働かせていくのかを、具体的な手立てと合わせて考えていきたい。そうした教師の営みの中で、日々の授業実践を積み重ねていくことが深い学びにつながっていく。

今週末も天気予報チェックに余念はない。車よりも燃費が悪いことには目をつむって、安全に十分気をつけた運転になるよう常に自分を戒め続けていきたい。今日の目的地で待っているものへの期待感いっぱいになりながら。

☆研究主題☆

数学的な見方・考え方を働かせながら、主体的・対話的で深い学びを実現する授業の創造

- ・授業づくりの際、どの場面で、どのような数学的な見方・考え方が働くかを明確にする。
- ・日常や社会の中での事象、数学の事象から問題を見いだす活動を大切にする。
- ・数学的活動の楽しさや数学のよさに気づき、学習を振り返ってよりよく問題解決しようとする態度、算数・数学で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度を育てる。
- ・仲間の考えや先哲の考え方を手掛かりに、子供が自己の思考を深める機会をつくる。
- ・数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解できるようにする。
- ・身に付けた基礎的・基本的な概念や性質などをつなげ（統合）、新しい概念を形成したり、よりよい方法を見いだしたりできるようにする。

☆令和8年度 現職研修委員会 算数・数学部 組織☆

部長		指導員		小学校世話係		中学校世話係	
塚谷 保	小豆坂小	神谷 尚希	甲山中	鈴木 智香	六名小	手嶋 夕菜	甲山中
佐橋 康仁	藤川小	国分 貴寛	北 中	長谷川竣也	三島小	柴田 博巳	南 中
石原 昌仁	美川中			江口 京弥	矢作南小	河上 翔太	葵 中
				加藤 秀太	六ツ美南部小	江藤 友美	六ツ美中

☆算数・数学部の連絡☆

① 読書会

柴田録治先生（愛知教育大学名誉教授）、高須亮平先生（元愛知教育大学教授）をお迎えして、自己研鑽そして授業力アップに努めていきます。

場所は総合学習センターです。

・第1回 5月12日（火）18：00～ 第2回 6月2日（火）18：00～

※2週間前に会員の先生へ案内をメッセージと Teams で送信します。

② 授業研究会

・日 時 6月20日（土）午前 ・場 所 小豆坂小学校 ・授業者 国分貴寛先生（北中）

③ 全国算数・数学教育研究大会（東京）大会

・日 時 8月3日（月）～8月7日（金）

・場 所 開会式、講演会はオンラインでの実施 分科会は各会場で実施

・提案者 国分貴寛先生（北中）、河上翔太先生（葵中）
柴田博巳先生（南中）、中神郁海先生（広幡小）

④ 愛知県数学教育研究会小中学校部研究大会（豊川大会）

・日 時 8月20日（木） ・場 所 豊川市御津文化会館（ハートフルホール）
豊川市御津生涯学習センター

・提案者 小学校中学年 江口京弥先生（矢作南小） 小学校3年「分数」

⑤ 算数・数学に関わる研究会（予定）

・竜海中学校 10月 7日（水）

・矢作南小学校 10月14日（水）

・竜谷小学校 11月11日（水）

⑥ 東海地方数学教育会 第73回研究（三重）大会

・日 時 11月20日（金） ・場 所 四日市市立大谷台小学校
三浜文化会館

・提案者 小学校中学年 鈴木佑典先生（六ツ美西部小） 小学校4年「垂直・平行と四角形」



算数・数学の授業 こんな工夫しています！！

～主体的・対話的で深い学びの実装に向けて～

既習事項と本時の学習の内容をつなげる

私は、算数の授業を行う際、「前に学習したこととの違いは何かな」「似ている考え方、同じ考え方はあるかな」と導入や展開の冒頭で問うようにしています。研究主題にもある「深い学び」をさらに進めていくためには、いかに既習事項と本単元で学習する内容をつなげることができるかが大切であると考えます。そこで、児童が既習事項との類似点や相違点を考える活動を取り入れることで、児童の言葉によって本時で学習したい内容を整理できます。しかし、低・中学年の児童が言葉で表すには難易度が高い場合もあります。そのため、この類似点や相違点を聞く際、どんな小さな気づきもヒントになると児童に伝え、可能な限り毎時間問うようにしています。

小学校3年生「一万を超える数」の「一万を超える数どうしの加法」の学習を行う場面では、問題を提示した後、類似点を聞きました。児童からは、「たし算を使っている」「数字が大きくなっているだけ」と考えが出ました。ここで、「だけってどういう意味？」とさらに聞くことで「位を揃えれば、どんなに数が大きくなっても計算方法は変わらず筆算を行うことができる」かどうか、児童の言葉でめあてを設定し、本時の授業を展開できました。

教師が授業で既習事項と本時の学習とをつなげていくことで、児童は算数の学習が低学年からずっと続いているのだと考えられるようになり、既習事項を使えないだろうかと考え始めます。これからも、中教審の論点整理にある「深い学びの実装」に近づけるよう、まずは発問や授業の展開を工夫していきます。

<文責：江口京弥（矢作南小学校）>